

令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書（令和5年度）

NDB オープンデータと医科診療行為マスタ
を用いた医療技術の再評価方法の構築
- 職能団体とのヒアリングによる調整 -

研究分担者 小野 孝二（東京医療保健大学 教授）

研究協力者 板橋 匠美（東京医療保健大学 総合研究所 客員准教授）

研究分担者 明神 大也（奈良県立医科大学 講師）

研究要旨

新規医療技術の評価及び既存医療技術の再評価については、診療報酬における医療技術（医師等による手技等）の適正な評価の観点から、2年に1度の診療報酬改定毎に学会等から提出された医療技術評価・再評価提案書（以下「提案書」という。）に基づき、医療技術評価分科会（以下、「分科会」という。）において、中央社会保険医療協議会（以下、「中医協」という。）総会へ報告が行なわれてきた。具体的には、診療報酬改定の度に約1000件程度の提案書が提出され、150から400件程度が新規医療技術として保険適用されている。

しかしながら、既存医療技術の再評価については、十分に実施されておらず、中医協総会においても指摘されており、中立的かつ専門的な観点から適切に議論されるよう、具体的な評価方法を検討することが必要とされている。医療技術の再評価を恒久的に行うためには、薬価や保険医療材料と同様、スクリーニング基準を策定し、スクリーニングに該当した技術を精査するとともに、その基準を適時更新していくことが望ましいとされる。

他方、近年では国民皆保険制度を有する日本の保険診療の悉皆調査に利用されている情報として、厚生労働省において高齢者の医療確保に関する法律に基づき、匿名化されたレセプト情報と特定健康診査・特定保健指導情報を全国の医療機関等から収集することで構築されるビッグ・データとして、レセプト情報・特定健診等情報データベース（以下、「NDB」という。）というものが存在する。

そこで本研究は、保険収掲されている医療技術の再評価方法を策定するための研究として、初年度は放射線治療の分野において算定されていない項目で現実性の検証は必要であるものの、画像検査はアナログからデジタルへの移行に伴い臨床の現場で利用されなくなった医療技術であったというヒアリング結果を得た。次年度にあたる本年度は抽出幅を広げて臨床検査の側面からヒアリングを行い、恒常的かつ広域的な手法として医療技術再評価の策定規準案を提示することとし、医科診療行為マスタとNDBオープンデータを突合した結果を踏まえて、保険収載されている医療技術に関し削除項目として提案するにあたりどのような基準をもって行っているかについてヒアリングを実施した。

その結果、①検査/測定する際に使用する体外診断用医薬品が製造販売終了等でなくなり、今後も開発の見込みがない項目の中で、臨床的な意義/有用性がほとんどないと考えられる項目、②有用な検査法が開発されるなど他の検査法に代替もしくは集約等されることにより、その検査法自身は医療現場においては既に実施されなくなっており、臨床的な意義/有用性がほとんどないと考えられる項目、③診療報酬点数表での算定留意事項等の記載内容が重複しているため、記載整備的な観点から不要と考えられる項目の3種類に分類できることが分かった。

NDBオープンデータと医科診療行為マスタを用い、医科診療行為マスタに存在しているのにNDBオープンデータに存在しない、もしくは算定件数が大きく減った項目や少ない項目等を抽出し実態を把握する方法が医療技術の再評価を行うための一つの指標として有効であり、項目の関連団体の協力を得て医療技術の再評価策定規準案を提示する仕組みは、恒常的かつ広域的な手法として有効であることを示した。

A. 研究目的

【背景】

新規医療技術の評価及び既存医療技術の再評価については、診療報酬における医療技術（医師等による手技等）の適正な評価の観点から、2年に1度の診療報酬改定毎に学会等から提出された医療技術評価・再評価提案書（以下「提案書」という。）に基づき、医療技術評価分科会（以下、「分科会」という。）において、中央社会保険医療協議会（以下、「中医協」という。）総会へ報告が行われてきた。

具体的には、診療報酬改定の度に約1000件程度の提案書が提出され、150～400件程度が新規医療技術として保険適用されている。

しかしながら、既存医療技術の再評価については、十分に実施されておらず、中医協総会においても指摘されており、中立的かつ専門的な観点から適切に議論されるよう、具体的な評価方法を検討することが必要とされている。

医療保険の財政状況を踏まえ、薬価については薬価専門部会にて薬価の再算定を議論・実施し、保険医療材料については保険医療材料専門部会にて外国価格調整や再算定を議論・実施してきた。

医療技術の再評価を恒久的に行うためには、薬価や保険医療材料と同様、スクリーニング基準を策定し、スクリーニングに該当した技術を精査するとともに、その基準を適時更新していくことが望ましいとされる。

他方、近年では国民皆保険制度を有する日本の保険診療の悉皆調査に利用されている情報として、厚生労働省において高齢者の医療確保に関する法律に基づき、匿名化されたレセプト情報と特定健康診査・特定保健指導情報を全国の医療機関等から収集することで構築されるビッグ・データとして、レセプト情報・特定健診等情報データベース（以下、「NDB」という。）というものが存在する。

そこで本研究は、保険収掲されている医療技術の再評価方法を策定するための研究として、初年度は放射線治療の分野として医科診療報酬のE 画像診断とM放射線治療を対象とし、医科診療行為マスタ（平成31

年度、令和2年度分）に存在しているのにNDB オープンデータに存在しなかった項目を抽出し、関連する職能団体の協力を得ることで医療技術の再評価の可能性について検討した。その結果、算定されていない項目において确实性の検証は必要であるものの、画像検査についてはアナログからデジタルへの移行に伴い臨床の現場で利用されなくなった医療技術であったというヒアリング結果に至った。

【目的】

総括研究の目的は、保険収掲されている医療技術再評価の策定規準を構築することにある。

NDB オープンデータの結果は多岐にわたる。その中には、算定されていない項目の他、算定件数が大きく減った項目や10件未満の算定に限られている項目等も多数存在し、その実態は不明瞭となっている。

本分担研究において次年度にあたる令和5年度では、これら抽出幅を広げた実態も検証対象に含めて臨床検査の側面からヒアリングを行い、恒常的かつ広域的な手法として医療技術再評価の策定規準案を提示することを目的とする。

B. 研究方法

以下の条件下の情報を提示の上で、既に保険収載されている医療技術として削除検討の俎上にあげる基準を提案するにあたり、患者データに基づかないその分野を担当する関係者のご意見について、関連する団体へのヒアリングを実施した。

- ▶ 平成17年から令和2年を対象期間とし、ヒアリング対象団体より廃止又は減点すべき項目として提案された臨床検査関連項目
- ▶ 平成26年から令和2年を対象期間とし、医科診療行為マスタとNDBオープンデータを突合した結果、臨床検査の分野として医科診療報酬のD検査とN病理診断において、一度でも年間実施数が200件以下となった臨床検査関連項目で、かつ令和2年度が500件以下とな

った項目

<ヒアリング対象>

- ・一般社団法人 日本臨床検査振興協議会
診療報酬改定小委員会（委員長 東條尚子氏）
- ・一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
診療報酬委員会（委員長 益田泰蔵氏）

<研究協力団体>

- ・一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

C. 研究結果

1. 平成 18 年度から平成 26 年度までの診療報酬改定において、日本臨床検査医学会あるいは日本臨床検査専門医会より、廃止又は減点が提案された項目

検証対象とする期間において日本臨床検査医学会あるいは日本臨床検査専門医会より廃止又は減点が提案された項目は、平成 18 年度 11 件、平成 20 年度 7 件、平成 22 年度 11 件、平成 24 年度 11 件、平成 26 年度 12 件で、重複を除き計 41 項目であった。具体的な診療行為の項目は資料 1 に記載する。

なお、日本臨床検査医学会ならびに日本臨床検査専門医会は検体検査、生体検査、検体採取料、医学管理料など検査に関連する提案を行っているが、平成 18 年度から平成 26 年度の間で検体検査以外の廃止又は減点の提案は行っていない。

2. 医科診療行為マスタと NDB オープンデータを突合した結果

令和 2 年度における医科診療行為の D 検査は 1556 項目、N 病理診断は 40 項目が存在している。うち、以下の条件下で項目の抽出を行った。

1) 平成 26 年から令和 2 年度までに D 検

査、N 病理診断から削除された項目¹

D 検査で 38 項目、N 病理診断で 1 項目であった。D 検査の内訳は、検体検査料が 34 項目、生体検査料が 4 項目であった。具体的な診療行為の項目は資料 2 に記載する。

2) 平成 26 年から令和 2 年度までに D 検査、N 病理診断で年間実施件数が 200 件以下となったことがあり、令和 2 年度が 500 件以下である項目

令和 2 年度に年間実施件数 0 件の項目は計 5 項目であり、内訳は D 検査の生体検査料 5 項目であった。

令和 2 年度に年間実施件数 1 から 9 件の項目は、計 42 項目であり、内訳は D 検査の検体検査料 18 項目、生体検査料 24 項目であった。

令和 2 年度に年間実施件数 10 から 49 件の項目は計 57 項目であり、内訳は D 検査の検体検査料 33 項目、生体検査料 19 項目、診断穿刺・検体検査料 3 項目、N 病理診断の 2 項目であった。

令和 2 年度に年間実施件数 50 から 99 件の項目は計 28 項目であり、内訳は D 検査の検体検査料 17 項目、生体検査料 6 項目、診断穿刺・検体検査料 4 項目、N 病理診断の 1 項目であった。

令和 2 年度に年間実施件数 100 から 199 件の項目は計 37 項目であり、内訳は D 検査の検体検査料 17 項目、生体検査料 14 項目、診断穿刺・検体検査料 5 項目、N 病理診断の 1 項目であった。

令和 2 年度に年間実施件数 200 から 499 件の項目は計 21 項目であり、内訳は D 検査の検体検査料 12 項目、生体検査料 7 項目、診断穿刺・検体検査料 2 項目であった。

具体的な診療行為の項目は資料 3 に記載する。

3. 臨床検査分野の関連団体ヒアリング医科診療行為マスタと NDB オープンデータを突合した結果を踏まえ、保険収載されて

¹ 削除については、項目自体が廃止されている場合の他、「処理が容易なもの」等の

ように項目名の統合による変更の場合や記載の整備によるものが含まれている。

いる医療技術に関し削除項目として提案するにあたりどのような基準をもって行っているかヒアリングを実施した。

1) 日本臨床検査振興協議会 診療報酬改定小委員会のヒアリング結果

一般社団法人 日本臨床検査振興協議会は、組織体を形成する一般社団法人 日本臨床検査薬協会、一般社団法人 日本衛生検査所協会、一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会、一般社団法人 日本臨床検査専門医会、一般社団法人 日本臨床検査医学会が協議し合意を得た上で、日本臨床検査医学会から検体検査に関連する医療技術評価提案の提出をしている。

結果としては大きく以下の3種類に分類された。

- 検査/測定する際に使用する体外診断用医薬品が製造販売終了等でなくなり、今後も開発の見込みがない項目の中で、臨床的な意義/有用性がほとんどないと考えられる項目
- 有用な検査法が開発されるなど他の検査法に代替もしくは集約等されることにより、その検査法（検査項目）自身は医療現場においては既に実施されなくなっており、臨床的な意義/有用性がほとんどないと考えられる項目
- 診療報酬点数表での算定留意事項等の記載内容が重複している（いずれの項目でも算定可能と読めるなど）ため、記載整備的な観点から不要と考えられる項目

いずれの場合も、検査件数が少ないことだけで削除候補とすることはなく、その検査の臨床的意義/有用性を検討し、医療への影響を考慮して提案がなされていた。

ただし、二つ目のケース（他の検査法に代替もしくは集約等する場合）として意見

だしするにあたっては、検査件数が未だ多い場合（臨床的意義は低くなっているものの慣例的に実施が継続している）もあるため、ガイドラインの改訂や文献的考察に基づく学会声明の発出など関連学会との意見調整、製造業者等関連する団体との連携が必要となることであった。

また、臨床的有用性が高い項目は、製造業者から販売停止の申し出が出た段階で販売の継続や新たな検査試薬の開発を促し、検査の継続ができるように産官学の連携が望まれることであった。

2) 日本臨床衛生検査技師 診療報酬委員会のヒアリング結果

ヒアリング対象とする分野の職能団体として単独で医療技術評価に係る要望書の提出を行っている一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会に対し、日本臨床検査振興協議会としてとりまとめる意見の他、削除項目としての提案にあたる意見を伺った結果、保険収載されている医療技術に関し削除項目として提案するにあたっては、いずれも同理由であった。

D. 考察

本研究によって、医科診療行為マスタに存在しているのに NDB オープンデータに存在していない項目に加え、算定件数が大きく減った項目や 10 件未満の算定に限られている項目等がある実態を踏まえた上で、臨床検査の分野において、患者データに基づかないその分野を担当する関係者のご意見について確認することができた。

結果として臨床検査の分野においては、保険収載されている医療技術に関し削除項目として提案するにあたり、いずれの場合でも、外的にもたらされた影響を受けた項目において、関連する団体や学会との程度の違いはあるにせよ意見調整がなされたうえで提案が行われていると考えられる。これは他分野でも同様なことが入るのではないかと推察する。

他方、臨床検査の分野においては、臨床的有用性が高い項目は、製造業者から販売停止の申し出が出された段階で販売の継続や

新たな検査試薬の開発を促し、検査の継続ができるよう産官学の連携が望ましいと考える。

E. 結論

NDB オープンデータと医科診療行為マスタを用い、医科診療行為マスタに存在しているのに NDB オープンデータに存在しない、もしくは算定件数が大きく減った項目や10件未満の算定に限られている項目等を抽出し、実態を把握する方法は医療技術の再評価を行うための一つの指標として有効であることが示唆された。

加えて、医療技術に関する項目に関連ある団体の協力を得ることでヒアリングを行い、医療技術の再評価を行う仕組みは臨床検査の分野においても有効であることが示唆された。

これらより、上記方法は恒常的かつ広域的な手法として医療技術再評価の策定規準案として提示する一つの方法となりえると考えられ、今後は今回検討していない医科診療報酬の診療科について、関連する職能団体の協力を得るなどして、保険収掲されている医療技術の再評価方法を策定するための研究を継続して進めていく必要がある。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 なし

H. 論文発表 なし

I. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

(資料 1)

平成18年度から平成26年度診療報酬改定に、日本臨床検査医学会ならびに日本臨床検査専門医会から廃止または減点が提案された検査項目

	検査項目	提案内容	H18年度	H20年度	H22年度	H24年度	H26年度
1	ヘモグロビンA1 (Hb A1)	廃止	○				
2	凝固時間測定	廃止	○				
3	部分トロンボプラスミン時間測定	廃止	○				
4	アルブミン・グロブリン比測定	廃止	○				
5	フルクトサミン	廃止	○				
6	総脂質	廃止	○				
7	過酸化脂質	廃止	○				
8	ポールパネル反応	廃止	○				
9	C反応性蛋白 (CRP) 定性	廃止	○				
10	アレルゲン刺激性遊離ヒスタミン (HRT)	廃止	○				
11	ロゼット法によるリンパ球サブセット検査 (項目数にかかわらず一連につき)	廃止	○				
12	βリポ蛋白	廃止		○			
13	モノアミノオキシダーゼ (MAO)	廃止		○			
14	T ₃ 接種率 (T ₃ uptake) 精密測定	廃止		○			
15	免疫抑制賛成蛋白 (IAP)	廃止		○			
16	ヴィダール反応	廃止		○			
17	ナイアシンテスト	廃止		○			
18	尿ポルフィリン定性	廃止			○		
19	尿ビリルビン定量	廃止			○	○	
20	尿ウロビリニン定量	廃止			○	○	
21	糞便中ウロビリノゲン	廃止			○	○	
22	動的赤血球膜物性検査	廃止			○	○	
23	全血凝固溶解時間	廃止			○	○	
24	血清全プラスミン測定法 (血清SK活性化プラスミン値)	廃止			○	○	
25	17-ヒドロキシコルチコステロイド (17-OHCS)	廃止			○	○	
26	17-ケトステロイド (17-KS)	廃止			○	○	
27	キシローゼ試験	廃止			○	○	
28	尿中ポルフィリン症スクリーニングテスト	廃止				○	
29	クレアチニン (ヤッフェ法)	廃止				○	○
30	肺サーファクタント蛋白-A (SP-A) (羊水)	廃止					○
31	エステル型コレステロール	廃止					○
32	遊離脂肪酸	廃止					○
33	前立腺酸ホスファターゼ	廃止					○
34	不飽和鉄結合能 (UIBC) (RIA法)	廃止					○
35	総鉄結合能 (TIBC) (RIA法)	廃止					○
36	カタラーゼ	廃止					○
37	シスチンアミノペプチダーゼ (CAP)	廃止					○
38	溶連菌エステラーゼ抗体 (ASE)	廃止					○
39	リウマトイド因子 (RF) 半定量	廃止					○
40	LEテスト定性	廃止					○
41	プロトロンビン時間測定 (増点)、トロンボテスト (減点)	増点・減点		○	○		

作成：日本臨床検査振興協議会診療報酬改定小委員会

(資料2)

○平成26年から令和2年度までにD(検査)から削除された項目(38項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度		
検体検査料	尿・糞便等検査	D003	160007410	キモトリブシン(糞便)	D	62	34	21	16				
		D004	160003850	酸度測定(胃液)	D	212	163	646	640				
		D004	160109750	L D半定量(腔分泌液)	D	89	142	1~9	10				
		D004	160153750	2型プロコラーゲン-C-プロペプチド(コンドロカカルシン)	D	157	138	99	102				
		D004	160156950	S P-A(羊水)	D	82	55						
		D004-2	160190910	悪性腫瘍遺伝子検査(EWS-Fli1遺伝子検査)	D	23	36	25	40	33	25		
		D004-2	160191010	悪性腫瘍遺伝子検査(TLS-CHOP遺伝子検査)	D	1~9	1~9	1~9	57	65	64		
		D004-2	160191110	悪性腫瘍遺伝子検査(SYT-SSX遺伝子検査)	D	45	42	29	45	53	49		
		D004-2	160191410	悪性腫瘍遺伝子検査(センチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査)	D	249	266	212	245	199	39		
		D004-2	160216350	悪性腫瘍遺伝子検査(シークエンサーシステム・2項目一括)	D					0	1~9		
		D004-2	160205250	悪性腫瘍遺伝子検査(BRAF遺伝子検査)	D	110	764	774	836	6202	8290		
		血液学的検査	D006	160016910	フィブリノゲン	D	72	26	1~9	1~9			
			D006-4	160216950	遺伝学的検査(NTRK融合遺伝子検査)	D					0	1~9	
		生化学的検査(I)	D007	160024610	ムコ蛋白	D	690	629	271	227	225	198	
	D007		160027210	CAP	D	78	116						
	生化学的検査(II)	D009	160037610	SP1	D	40	38	20	36				
		D009	160116710	CAS0	D	61	75	47	30				
		D009	160116810	POA	D	61	362	66	58				
		D009	160125350	CA130	D	53	27	21	81				
		D009	160151750	HCGβ-CF(尿)	D	128	97	56	57				
		D009	160158550	遊離型フコース(尿)	D	1~9	1~9	0	1~9				
		D009	160174650	HER2蛋白(乳頭分泌液)	D	88	83	73	89				
		D009	160178410	PICP	D	154	190	58	15				
		免疫学的検査	D012	160041210	ASP半定量	D	120	118	16	42			
			D012	160043910	ADNaseB半定量	D	239	98	11	1~9			
	D012		160044910	Weil-Felix反応	D	29	12	28	26				
	D012		160045510	秋疫A抗体	D	1~9	1~9	1~9	1~9				
	D012		160045610	秋疫B抗体	D	1~9	1~9	0	1~9				
	D012		160045710	秋疫C抗体	D	1~9	1~9	1~9	1~9				
	D012		160045810	ウイルス病抗体	D	1~9	1~9	1~9	1~9				
	D012		160045910	カンコーラ抗体	D	15	1~9	1~9	11				
	D012		160046510	ダニ特異IgG抗体	D	78	94	66	29				
	D012		160142550	ボレリア・フルグドルフェリ抗体	D	96	119	93	81				
	微生物学的検査	D023-2	160145250	TDH定性	D	28	18	10	1~9				
	生体検査料	呼吸循環機能検査等	D200	160062950	体プレスチモグラフを用いる諸検査	D	151	110					
			D300-2	160161030	頷関節鏡検査(両側)	D	1~9	0	0	1~9	1~9	0	
		内視鏡検査	D305	160093210	食道鏡	D	146	108					
			D305	160093350	食道カメラ	D	44	41					

○平成26年から令和2年度までにN(病理診断)から削除された項目(1項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26OPD	H27OPD	H28OPD	H29OPD	H30OPD	31/R01OP	R02OPD
病理標本作製料	N005	160216650	HER2遺伝子標本作製(シークエンサーシステム)	N						0	79

*削除については、項目自体が廃止されている場合の他、「処理が容易なもの」等のように項目名の統合による変更の場合や記載の整備によるものが含まれている。

○平成26年度から令和2年度の間に、D(検査)で年間実施件数が200件以下となったことがあり、令和2年度が500件以下でる項目(186項目)

1) 令和2年度に年間実施件数0件の項目(5項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	
生体検査料	呼吸循環機能検査等	D207	160067810	脳循環測定(笑気法によるもの)	D	1~9	1~9	0	0	0	1~9	0
	ラジオアイソトープを用いた諸検査	D292	160090910	赤血球寿命測定(R1)	D	0	1~9	0	0	1~9	0	0
		D292	160091010	造血機能検査(R1)	D	0	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	0
		D292	160091110	血小板寿命測定(R1)	D	0	1~9	0	1~9	1~9	0	0
	内視鏡検査	D311	160094430	コロンブラッシュ法(組織切片標本検鏡法)	D	1~9	0	1~9	1~9	1~9	0	0

2) 令和2年度に年間実施件数1~9件の項目(42項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	
生体検査料	尿・糞便等検査	D001	160003650	Rimington	D	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
		D001	160003750	Deanand Barnes	D	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
		D001	160134350	ポリアミン(尿)	D	42	22	27	11	35	24	1~9
		D001	160156710	ポルフィリン症スクリーニングテスト(尿)	D	385	404	312	1~9	1~9	12	1~9
	血液学的検査	D006	160012750	蛇毒試験	D	1~9	1~9	15	1~9	1~9	1~9	1~9
		D006-4	160224450	抗アデノ随伴ウイルス9型抗体測定	D							1~9
	生化学的検査(I)	D007	160025810	有機モノカルボン酸(α-ケトグルタル酸)	D	657	1~9	1~9	15	1~9	72	1~9
		D007	160124950	2,5-オリゴアデニル酸合成酵素活性	D	11	28	24	1~9	1~9	1~9	1~9
		D007	160133550	有機モノカルボン酸(グルタチオン)(尿)	D	1~9	1~9	0	1~9	1~9	1~9	1~9
		D007	160134050	γ-GTアイソザイム(尿)	D	55	13	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
	生化学的検査(II)	D008	160135950	17-ケートジェニックスステロイド(17-KGS)(尿)	D	414	285	255	275	176	126	1~9
		D010	160038850	ヒステジン定量(血清)	D	11	17	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
		D010	160038950	フェニール・アラニン(尿中)	D	1~9	1~9	1~9	0	1~9	1~9	1~9
	免疫学的検査	D012	160143550	D-アラビノール	D	150	110	110	71	15	1~9	1~9
		D013	160118610	デルタ肝炎ウイルス抗体	D	36	1~9	12	11	15	19	1~9
		D015	160020810	グルコース-6-ホスファターゼ(G-6-Pase)	D	1~9	1~9	39	1~9	1~9	1~9	1~9
		D015	160022710	グルコース-6-リン酸デヒドロゲナーゼ(G-6-PD)定性	D	10	12	1~9	12	1~9	1~9	1~9
	微生物学的検査	D024	160059710	動物使用検査	D	1~9	11	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
D200		160063110	左右別肺機能検査	D	33	28	1~9	20	172	146	1~9	
呼吸循環機能検査等	D210-4	160198610	T波オルタナンス検査	D	600	591	149	144	60	13	1~9	
	D213	160072030	亜硝酸アミル吸入心音図検査	D	1~9	1~9	1~9	1~9	0	1~9	1~9	
	D214-2	160071850	エレクトロキモグラフ	D	208	234	199	1~9	1~9	1~9	1~9	
	D217	160226050	骨塩定量検査(REMS法)	D							1~9	
超音波検査等	D217	160226170	大腿骨同時検査加算(REMS法)	D							1~9	
	D236-2	160203510	光トポグラフィ(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)(イ以外の場)	D	312	54	39	54	77	32	1~9	
眼科学的検査	D276	160085010	網膜中心血管圧測定(複雑なもの)	D	16	31	29	12	11	16	1~9	
	D289	160088610	胆道機能テスト	D	0	1~9	1~9	1~9	0	1~9	1~9	
生体検査料	負荷試験等	D289	160089150	アジスカウント(Addis)尿沈渣定量検査	D	11	13	1~9	11	10	1~9	1~9
		D289	160089250	モーゼンタル法	D	1~9	1~9	0	1~9	1~9	13	1~9
		D289	160160710	セクレチン試験	D	29	49	1~9	11	1~9	10	1~9
		D291	160180010	鼻アレルギー誘発試験(22箇所以上の場合)(一連につき)	D	0	1~9	1~9	1~9	0	1~9	1~9
		D291	160180110	過敏性経路検査(22箇所以上の場合)(一連につき)	D	0	1~9	1~9	1~9	0	1~9	1~9
		D292	160090510	循環血液量測定(R1)	D	14	24	1~9	0	1~9	1~9	1~9
		D292	160090710	血球量測定(R1)	D	26	12	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9
ラジオアイソトープを用いた諸検査	D292	160090810	吸収機能検査(R1)	D	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	0	1~9	
	D293	160091610	肝血流量(ヘパトグラム)(R1)	D	1~9	1~9	23	10	1~9	1~9	1~9	
	D300-2	160160910	頸関節鏡検査(片側)	D	1~9	0	1~9	1~9	1~9	0	1~9	
	D311	160094330	コロンブラッシュ法(沈渣塗抹染色細胞診断法)	D	1~9	16	10	12	14	18	1~9	
	D316	160095210	クルドスコピー	D	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	
	D324	160171310	血管内視鏡検査	D	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	1~9	
	D325	160065850	肺臓カテテル法	D	13	27	24	12	1~9	1~9	1~9	
内視鏡検査	D325	160180670	乳幼児加算(肺臓、肝臓、脾臓カテテル法)(3歳未満)	D	0	0	0	1~9	0	0	1~9	

3) 令和2年度に年間実施件数10~49件の項目(55項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度		
検体検査料	尿・糞便等検査	D001	160003550	Watson-Schwarz反応	D	1-9	1-9	10	15	12	48	15	
		D001	160181950	ミオイノシトール(尿)	D	1-9	1-9	26	14	31	21	35	
		D003	160112610	ウロビリリン(糞便)	D	168	107	91	74	51	44	30	
		D004-2	160221510	悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli1遺伝子検査	D								31
		D004-2	160221910	悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査	D								17
		D004-2	160222510	固形癌におけるNTRK融合遺伝子検査	D								47
	血液学的検査	D006	160014610	プラスミン	D	72	254	188	112	27	48	21	
		D006-7	160225350	薬物代謝酵素CYP2C9遺伝子多型	D							13	
	生化学的検査(I)	D007	160025110	グルコース-6-リン酸デヒドロゲナーゼ(G-6-PD)	D	12	12	17	1-9	10	14	16	
		D007	160133850	有機モノカルボン酸(α-ケトグルタル酸)(尿)	D	16	16	31	27	12	26	15	
	生化学的検査(II)	D008	160032110	セクレチン	D	70	63	57	77	322	143	10	
		D008	160034510	17-ケートジェニックスステロイド(17-KGS)	D	577	584	575	556	440	304	45	
		D008	160034610	17-ケートジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)	D	227	215	194	201	199	116	34	
		D008	160034810	プレグナンジオール	D	90	88	133	28	36	33	43	
		D008	160124050	ヒト胎盤性ラクターゲン(HPL)	D	10293	8963	8222	7517	6171	101	10	
		D008	160136050	17-ケートジェニックスステロイド分画(17-KGS分画)(尿)	D	142	105	157	121	137	103	19	
		D008	160163950	インスリン様成長因子結合蛋白3型(IGFBP-3)	D	107	106	58	51	33	29	11	
		D009	160137350	組織ポリペプチド抗原(TPA)(尿)	D	94	55	22	1-9	20	16	19	
		D009	160138850	SPan-1(腹水)	D	205	128	129	122	89	70	48	
		D009	160184850	サイトケラチン8・18(尿)	D	1-9	44	60	55	1-9	11	14	
	免疫学的検査	D012	160042810	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ポリオウイルス1型)	D	533	626	561	429	476	112	25	
		D012	160042910	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ポリオウイルス2型)	D	466	520	470	396	422	100	23	
		D012	160043010	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ポリオウイルス3型)	D	479	527	497	473	429	111	24	
		D012	160201250	インフルエンザ菌(無英膜型)抗原定性	D	272	177	99	116	82	32	17	
		D012	160203210	プルセラ抗体半定量	D	32	24	42	19	23	51	27	
		D012	160205550	デングウイルス抗原定性	D	0	75	153	123	117	158	16	
		D012	160208950	デングウイルス抗原・抗体同時測定定性	D			43	89	105	138	18	
		D013	160195510	HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	D	78	39	129	102	72	73	25	
		D015	160056210	ヘモベキシン	D	10	1-9	13	1-9	1-9	34	28	
		D015	160114310	赤血球コプロポロフィン定性	D	44	59	32	50	19	12	18	
	微生物学的検査	D023	160201350	結核菌群ピラジナミド耐性遺伝子検出	D	24	21	21	30	116	77	32	
		D023	160202150	結核菌群イソニアジド耐性遺伝子検出	D	15	22	15	11	56	21	16	

生体検査料	呼吸循環機能検査等	D201	160063550	肺粘性抵抗測定	D	1380	282	116	177	121	54	48
		D203	160064210	肺内シャント検査	D	15	15	24	18	33	44	27
		D206	160064770	新生児加算(心臓カテーテル法)(右心)	D	0	35	23	30	21	26	24
		D206	160065170	ブロッケンブロー加算(心臓カテーテル法)	D	0	95	73	62	59	35	49
		D206	160185970	新生児加算(心臓カテーテル法)(左心)	D	0	40	43	27	30	23	21
		D207	160143950	電子授受式発色性インジケーター使用皮膚表面温度測定	D	1943	467	848	731	759	123	41
		D210-2	160069850	心外膜興奮伝播図	D	31	15	1-9	1-9	1-9	1-9	11
	脳波検査等	D236-2	160174010	光トポグラフィ(脳外科手術の術前検査に使用するもの)	D	69	84	72	85	54	48	25
		D238	160207710	脳波検査判断料1(遠隔脳波診断を行った場合)	D			23	27	31	37	34
	神経・筋検査	D240	160077110	乏血運動負荷テスト(乳酸測定等を含む)	D	46	39	59	30	58	17	11
		D289	160088750	ビリルビン負荷試験	D	39	62	87	76	76	38	37
	負荷試験等	D289	160088850	馬尿酸合成試験	D	32	40	36	48	29	32	20
		D289	160089450	ヨードカリ試験	D	25	1-9	1-9	1-9	1-9	1-9	15
		D291	160089950	ヒナルゴンテスト(21箇所以内の場合)(1箇所につき)	D	85	73	69	56	32	40	42
		D291	160090250	過敏性転線検査(21箇所以内の場合)(1箇所につき)	D	20	23	21	10	27	14	28
		D291	160179910	ヒナルゴンテスト(22箇所以上の場合)(一連につき)	D	0	13	17	23	46	36	30
	内視鏡検査	D295	160160830	関節鏡検査(両側)	D	20	19	21	22	25	32	31
		D302-2	160213910	気管支カテーテル気管支肺胞洗浄法検査	D					12	41	36
		D325	160166950	膀胱カテーテル法	D	24	41	28	35	26	34	32
	診断穿刺・検体採取料	D416	160098310	臓器穿刺・組織採取(開胸によるもの)	D	80	68	61	74	101	70	37
D417		160099110	組織試験採取・切採法(後眼部)	D	24	10	10	20	26	19	28	
D417		160100510	組織試験採取・切採法(精巣上体(副睾丸))	D	50	33	35	20	21	18	13	

4) 令和2年度に年間実施件数50～99件の項目(27項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度		
検体検査料	尿・糞便等検査	D001	160111810	先天性代謝異常症スクリーニングテスト(尿)	D	182	122	114	93	87	125	98	
		D004-2	160221610	悪性骨軟部組織腫瘍におけるT L S - C H O P 遺伝子検査	D							57	
		D004-2	160221710	悪性骨軟部組織腫瘍におけるS Y T - S S X 遺伝子検査	D							54	
		D004-2	160223750	M E T e x 1 4 遺伝子検査(血漿)	D							66	
		D004-2	160225050	大腸癌におけるマイクロサテライト不安定性検査(薬事承認又は認証を得ている)	D							54	
	血液学的検査	D005	160009170	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・脂肪染色)	D	0	51	71	47	7248	21061	60	
		D005	160009410	自己溶血試験	D	243	268	168	115	124	479	82	
		D006-18	160225750	B R C A 1 / 2 遺伝子検査(転移性去勢抵抗性前立腺癌・腫瘍細胞を検体とする)	D							77	
		D006-20	160217310	角膜ジストロフィー遺伝子検査	D							60	
		生化学的検査(I)	D007	160134150	アルミニウム(AL)(尿)	D	76	70	73	60	70	56	62
	生化学的検査(II)		D008	160138550	パニールマンデル酸(VMA)(髄液)	D	273	158	145	147	125	144	83
			D009	160163750	癌関連ガラクトース転移酵素(GAT)	D	4925	4592	187	53	62	59	57
	免疫学的検査	D010	160217810	先天性代謝異常症検査(その他)	D							98	
		D012	160044810	プルセラ抗体定性	D	90	120	103	105	127	115	70	
		D015	160055810	C3プロアクチベータ	D	148	173	38	36	38	66	86	
	微生物学的検査	D015	160114410	赤血球プロトポルフィリン定性	D	95	77	105	84	72	59	57	
		D023	160173350	細菌核酸検出(白血球)(1菌種あたり)	D	33	35	42	52	39	42	85	
生体検査料	呼吸循環機能検査等	D206	160198470	心腔内超音波検査加算(心臓カテテル法)	D	0	163	92	106	108	73	85	
	脳波検査等	D235	160076050	脳波検査(7誘導)	D	128	127	101	56	50	44	54	
	神経・筋検査	D239	160218710	単線維筋電図(一連につき)	D							96	
	内視鏡検査	D252	160080510	扁桃マッサージ法	D	259	231	126	77	82	106	95	
		D319	160156330	腎盂尿管ファイバースコープ(両側)	D	66	82	108	74	55	67	79	
診断穿刺・検体採取料	D323	160161310	乳管鏡検査	D	133	94	98	55	63	75	60		
	D405	160180770	乳幼児加算(関節穿刺)(3歳未満)	D	0	68	70	68	42	64	62		
	D407	160123010	腎囊胞穿刺	D	138	156	136	135	130	126	99		
	D407	160123110	水腎症穿刺	D	64	60	47	65	46	43	52		
	D416	160098570	乳幼児加算(臓器穿刺・組織採取)	D	0	126	108	134	90	100	91		

5) 令和2年度に年間実施件数100～199件の項目(36項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度		
検体検査料	尿・糞便等検査	D003	160006310	糞便中脂質	D	351	284	238	235	257	250	176	
		D004-2	160182210	抗悪性腫瘍剤感受性検査	D	1945	1421	827	571	353	232	187	
	血液学的検査	D005	160008770	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・パス染色)	D	0	227	192	167	145	128	139	
		D006-15	160215850	膀胱がん関連遺伝子検査	D						1~9	150	
		D006-4	160222610	遺伝学的検査(処理が容易なもの)((1)のオに掲げる遺伝子疾患の場合)	D							122	
	生化学的検査(I)	D007	160029510	ビルビン酸キナーゼ(PK)	D	278	201	183	194	128	176	141	
		D008	160115910	ノルメタネフリン	D	470	374	337	247	293	240	198	
		生化学的検査(II)	D008	160135750	卵巣刺激ホルモン(FSH)(尿)	D	565	399	215	174	137	140	153
			D008	160136150	プレグナジオール(尿)	D	256	284	220	242	306	384	180
			D008	160136450	テストステロン(尿)	D	305	156	141	112	97	122	127
			D008	160174850	1型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体(β-CTX)(尿)	D	223	168	189	136	688	450	145
			D008	160193210	エストロゲン定量(尿)	D	1564	879	793	805	687	658	147
			D009	160169710	尿中BTA	D	345	376	331	237	253	172	173
			D010	160137450	アミノ酸性(尿)	D	420	369	313	287	234	211	187
			免疫学的検査	D011	160117310	A B O 血液型関連糖転移酵素活性	D	124	138	161	151	189	170
	D013	160225950		インターフェロンλ3(IFN-λ3)	D							133	
	D014	160009950		Donath-Landsteiner試験	D	146	144	143	132	115	108	110	
生体検査料	呼吸循環機能検査等	D207	160068350	脳循環測定(色素希釈法によるもの)	D	64	76	103	83	91	76	115	
	監視装置による諸検査	D221-2	160198910	筋肉コンパートメント内圧測定	D	193	214	222	219	241	199	193	
	脳波検査等	D236	160076650	中間潜時反応聴力検査	D	1~9	1~9	16	17	115	106	178	
		D236-3	160175810	脳磁図(その他のもの)	D	934	1103	917	773	835	567	135	
	神経・筋検査	D240	160119510	瞳孔薬物負荷テスト	D	230	214	221	175	158	159	112	
	眼科学的検査	D258-3	160218810	黄斑局所網膜電図	D							104	
		D267	160083650	ランターンテスト	D	197	255	378	202	195	135	142	
		D289	160144810	肝機能テスト(BSP2回法)	D	261	265	314	244	175	184	190	
		負荷試験等	D289	160204550	インジゴカルミンを膀胱尿道ファイバースコープ又は膀胱尿道鏡検査に使用	D	100	121	71	77	100	89	159
	D291		160180210	薬物光線貼布試験(22箇所以上の場合)(一連につき)	D	137	213	229	146	165	181	150	
	ラジオアイソトープを用いた諸検査	D293	160091510	レノグラム(R1)	D	166	176	166	176	175	197	171	
	内視鏡検査	D304	160093150	縦隔鏡検査	D	265	246	220	192	185	158	143	
		D315	160095110	腹腔ファイバースコープ	D	534	506	433	405	321	250	137	
		D325	160065950	肝臓カテテル法	D	412	351	237	180	156	144	129	
診断穿刺・検体採取料		D402	160096210	後頭下穿刺	D	176	117	122	112	130	132	112	
		D403	160146850	頸椎穿刺(脳脊髄圧測定を含む)	D	296	273	335	330	339	266	164	
		D409-2	160188110	センチネルリンパ節生検(片側)(単独法)	D	357	291	235	230	160	151	150	
		D415	160200170	C T 透視下気管支鏡検査加算	D	0	254	267	278	217	271	194	
D415	160219570	顕微内視鏡加算	D							156			

6) 令和2年度に年間実施件数200～499件の項目(21項目)

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	
検体検査料	尿・糞便等検査	D001	160210610	シュウ酸(尿)	D					164	309	330
		D006	160011810	血餅収縮能	D	308	298	233	131	208	250	263
	血液学的検査	D006	160014250	プラスミン活性	D	820	718	450	538	238	172	212
		D006-11	160209550	F I P 1 L 1 - P D G F R α融合遺伝子検査	D				10	167	361	376
		D007	160028610	ガラクトース	D	170	148	118	157	155	220	270
	生化学的検査(Ⅰ)	D007	160180950	尿中硫酸抱合型胆汁酸測定	D	220	219	189	210	182	320	361
		D008	160136750	エストラジオール(E2)(尿)	D	402	432	546	502	378	185	205
	生化学的検査(Ⅱ)	D008	160136850	サイクリックAMP(cAMP)(尿)	D	296	303	286	252	241	188	237
		D010	160039050	ヒスチジン定量(尿中)	D	934	854	631	367	363	163	305
		D014	160182610	抗グルタミン酸レセプター抗体	D	553	377	215	186	252	245	234
	免疫学的検査	D016	160056710	顆粒球スクリーニング検査(種目数にかかわらず一連につき)	D	210	236	216	200	202	338	372
		D023	160206710	H T L V - 1 核殻検出	D				142	296	305	314
	生体検査料	呼吸循環機能検査等	D211-4	160207110	シャトルウォーキングテスト	D			87	205	222	189
監視装置による諸検査		D231	160075210	人工膀胱検査(一連につき)	D	168	202	109	178	144	151	200
神経・筋検査		D239-4	160203610	全身温熱発汗試験	D	114	180	231	239	431	477	495
		D287	160086910	副甲状腺負荷試験(一連として月1回)	D	199	219	212	201	275	249	251
負荷試験等		D289	160089050	水利尿試験	D	54	218	207	248	477	429	346
		D291	160180310	微小紅斑量(MED)測定(22箇所以上の場合)(一連につき)	D	27	27	23	25	32	146	205
ラジオアイソトープを用いた諸検査		D292	160090610	血漿量測定(R1)	D	1~9	1~9	294	1~9	49	183	242
診断穿刺・検体採取料	D404-2	160187970	乳幼児加算(骨髄生検)(6歳未満)	D	0	171	169	165	195	259	219	
	D417	160098910	組織試験採取、切採法(骨盤)	D	201	200	223	212	219	190	239	

○平成26年度から令和2年度の間に、N(病理診断)で年間実施件数が200件以下となったことがあり、令和2年度が500件以下である項目(4項目)

1) 令和2年度に年間実施件数10～499件の項目

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	移(折れ線)
1 病理診断・判断料	N006	160214710	組織診断料(他医)	N					44	43	30	
	N006	160214810	細胞診断料(他医)	N					15	28	40	

2) 令和2年度に年間実施件数50～999件の項目

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	移(折れ線)
1 病理標本作製料	N003-2	160214310	迅速細胞診(検査)	N					25	1~9	95	✓

3) 令和2年度に年間実施件数100～1999件の項目

区分	分類コード	診療行為コード	診療行為名称	区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	移(折れ線)
1 病理標本作製料	N003-2	160185110	迅速細胞診(手術)	N	0	93	61	64	147	206	174	〰